第157号　令和3年7月20日発行

総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから
[日本スポーツ振興センターHP]　http://www.jpnsport.go.jp/

スポーツくじ　toto　BIG
スポーツ振興くじ助成事業

特 集　学校運動部活動と連携するクラブ

▶▶▶ 幕別札内スポーツクラブ（北海道）

特別企画　熱中症予防とコロナ感染予防に取り組むクラブ

▶▶▶ 新町スポーツクラブ（群馬県）

特別企画　障がい者スポーツに取り組むクラブ

▶▶▶ 総合型地域スポーツクラブF-SPO（静岡県）
▶▶▶ NARUTO総合型スポーツクラブ（徳島県）

連載　Withコロナの中で新たな取り組みを行うクラブ

▶▶▶ 若松サンシャインスポーツクラブ（福岡県）

助成金情報 ▶▶▶ 詳細

お知らせ ▶▶▶ 詳細

バックナンバー ▶▶▶ 詳細

公益財団法人
日本スポーツ協会

特 集

学校運動部活動と連携するクラブ

特定非営利活動法人幕別札内スポーツクラブ
＜北海道幕別町＞

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

このような中、令和2年9月に文部科学省が示した「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」では部活動の地域移行について示されており、総合型クラブと学校運動部活動の連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

1 クラブ概要

町の2体育施設を指定管理

「地域で子どもたちを育てる」を理念に掲げ、子どもたちを中心に据え、地域の皆さんが互いにファミリーとして支え合える環境づくりに努めています。

小中学生を対象としたサッカー・陸上のチーム運営とともに、幼児のスポーツ教室や高齢者の健康教室などの各種スポーツ事業のほか、令和元年度より、町の2つの体育施設の指定管理も受託しています。

会員数より会員相互のつながりを優先

現在の会員は500名あまりで、職員20名のほか、ボランティアスタッフや高校生アルバイトで運営しています。会員数よりも、会員相互の横のつながりを大切にしています。

「横のつながり」に向け、年に1度の「みんなDEスポーツ＆焼肉」というイベントを創立、今も継続している大切な事業です。会員が集い、様々なスポーツを楽しむとともにBBQで相互交流を図っています。

これ以外にも、「陸上チーム」と「サッカーチーム」といった普段は異なる種目で会員が分かれていますが、それぞれが可能な限り一緒に別のスポーツの大会やイベントに参加したり、合同トレーニングにも参加したりしています。

2 高校との協働を契機に連携始動

私たちの運動部活動改革はまだまだ取り組み始めたばかりであり、一歩一歩、事業を検証しながら進めている段階です。高校との協働を切り口にしているところに特徴があります。

全生徒がクラブ会員に

地域と共に歩むことを目指す北海道幕別清陵高校と、同じ理念を掲げる地域スポーツクラブの共通の想いがあり、同高校校長とクラブマネジャーが面談をして互いの状況を共有したことがきっかけとなり連携がスタートしました。各種連携事業を進めていきながら運動部活動改革を探る中、生徒たちのスポーツ環境の充実とともに、教職員の働き方改革という視点から「生徒全員がクラブ会員に所属する」こととなりました。今年度からの体制のため、まだ課題は出てきませんが、今のところ苦労することは見当たりません。逆に、「生徒さんの活躍＝会員の活躍」であり、喜びが増えています。

クラブ側としては、生徒全員加入による財源をもとに、運動部活動に限らず、学校活動全体において会員向けの事業として協働していくことができます。たとえば、生徒たちの通常の授業の中でも、クラブが指定管理する施設でのスポーツ教室の運営のほか、地元企業への体験授業、地域の図書館などへの送迎をマイクロバスで行っています。また、授業で必要な講師を紹介したり、昨年度は生徒会との協働事業として地域でイベントを開催したりしました。一過性のものではなく、将来を見据えた持続可能な体制を構築することができることを期待しています。

清陵高校との連携図

清陵高校陸上部とクラブの陸上チームとの合同練習

学校側としても、部活動のみならず学校全体の業務負担の軽減で「教職員の働き方改革」につながります。そして、部活動も含めて、希望する教職員はクラブスタッフに就任することも可能で、地域での活動の幅を広げやすくなるという期待があります。

既存の部活動支援と新しいカタチの部活動創設

既存の部活動に対しては、試行的に昨年度初めに「陸上部」からスタートし、クラブスタッフが定期的に指導を行っています。成果を検証した上で、他の種目へと広げていく予定です。陸上部から始めたのは、高校に専門指導者が不在であったことと、わがクラブには陸上のチームがあり専門スタッフがいたことによります。

連携事業の中で陸上部の生徒が企画運営した陸上教室

生徒の発案で多世代・多種目型の「オール部」開設

新しいカタチの部活動としては、クラブとの協働で「多世代型運動部活動」の創設です。生徒自らが企画運営し、活動を創り出します。また、当該生徒のみならず、地域の誰もが参加できるような部活動を目指しています。生徒の発案で「オール部」という名称になりました。この部活動に加入を希望する生徒が増えていますが、各々が様々な趣向を持っています。今後、この部活動内に多種多様な「コース」を設け、一つの部活の中で多様なコースを設置して活動していく可能性もあります。この体制を整えていくことで、生徒たちが希望する部活動が学校になくても、オール部に加入し、その中で自ら希望する活動を創り出すことができます。

何より、新たな顧問の配置が必要ありません。例えば、新たにダンス部を創設しようとすると、そこに顧問が必要となってきます。さらに、テニスをやりたい子がいれば、テニス部を創設し、そこにも顧問が必要となります。しかしながら、「オール部」の中に、ダンスやテニスの「コース」ということであれば、今現在「オール部」として顧問が配置されているため、新たな顧問を置く必要はなく、新しいスポーツをする機会が増えることにつながります。

将来的には教職員が兼業でクラブスタッフに

将来的に、全ての部活動は勤務時間外にクラブ管理下で行われ、顧問を希望する教職員は、兼職兼業でクラブスタッフとして関わり、その対価の謝金を受けるという体制を目指しています。

創設「オール部」の活動

3 教職員と協働し新事業で財源確保を

課題はやはり「財源確保」と「指導者確保」となります。

「生徒全員がクラブ会員」となることで、一定程度の財源確保の見通しはできますが、今後、中学校を含むすべての部活動の地域移行となってくると十分とは言えません。よって、財源確保のためには、クラブスタッフとして各種事業の開催を希望する教職員と協働し、参加費収入が見込まれる新事業を組み立てていくことも検討しているところです。

新事業として昨年度も行いましたが、高校生と中学・高校顧問が主体となった「小学生向け野球教室」を開催しました。あくまでも希望する教職員がいらっしゃれば新事業の実施ということになりますが、互いに「地域貢献」や「競技普及」という想いが共有できた際に可能性があると思っています。その他、昨年度は、クラブ主催ではありますが、企画・運営は生徒会が担って「長いもお好み焼き大食い大会」というイベントも地域で開催しました。いずれも参加費収入がありました。

また、指導者確保については、現在、クラブが事務局を担っている町の少年団本部や、体育連盟との連携の中で、地域の小中高における同一指導者による一貫指導という視点で、地域人材の掘り起こしも進めていく必要があります。もちろん、希望する教職員の存在は貴重な人財です。

部活動改革＝「町づくり改革」→地域住民が参加できる展開に

部活動改革は「町づくり改革」とも言えます。こうした一つ一つの実績をもとに、自治体からの支援も求めていく必要はあると考えています。

本来、部活動は生徒全員が自由に参加できるものであり、誰もが自主的に運営できるものであるはずです。決して、一部の生徒だけのものになってはならないはずです。

そして、最終的には、部活動も当該生徒だけではなく「多世代を含む地域一体となったカタチ」の総合型クラブを目指し、地域住民が誰でも参加できる展開につなげていくことを夢見ています。それが、「地域で子どもたちを育てる」というクラブの理念そのものと考えています。

（幕別札内スポーツクラブ　クラブマネジャー　小田 新紀）

クラブ プロフィール

設立年月日　平成22年4月1日（平成23年8月31日法人登記）

所在地　北海道幕別町

運　営　会員数532名（令和2年3月現在）、予算規模7,500万円（令和3年度）

特　徴
- ・スポーツを通した地域コミュニティづくりを目指す。
- ・「食×スポーツ×音楽」を取り入れた各種事業を展開。
- ・スピードスケート金メダリスト髙木姉妹をはじめ、各競技でのトップアスリートが在籍経験あり。

連絡先　〒089-0531　北海道中川郡幕別町札内暁町287　札内スポーツセンター

TEL/FAX　0155-56-4083

E-Mail　ecsproject21@gmail.com

特別企画

熱中症予防とコロナ感染予防に取り組むクラブ

NPO法人新町スポーツクラブ
＜群馬県高崎市＞

総合型クラブの運営においては、安全面に配慮した事業の実施が必要となります。また、新型コロナウイルス感染症対策によりスポーツ環境も新しい生活様式を取り入れた活動に変化してきております。マスクを着用している人が多く、通常より熱中症のリスクが高くなるため、これからの季節には、より一層の熱中症予防も重要となってきます。

そこで、今回は、熱中症予防について取り組みを行っているクラブをご紹介いたします。

★スポーツ活動中の熱中症予防5ヶ条（スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブックより）

1. 暑いとき、無理な運動は事故のもと
2. 急な暑さに要注意
3. 失われる水と塩分を取り戻そう
4. 薄着スタイルでさわやかに
5. 体調不良は事故のもと

1 クラブ概要

スポーツ活動は11種目　ドイツ、沖縄と青少年交流事業も実施

平成9年度から3年間、当時の日本体育協会から総合型地域スポーツクラブ育成地区指定を受けました。平成12年11月23日に群馬県初となる、スポーツ少年団を核とした総合型地域スポーツクラブとして設立され、平成22年12月に特定非営利活動法人新町スポーツクラブとなりました。

現在、11種目のスポーツ活動とユースボランティア・がんサロン・子育て支援事業を定期的に実施しています。会員数は、今年4月現在320人で、クラブハウスは地域サロン「自遊空間　みちくさ」を活用しています。

地域を愛する青少年を育成するために、ドイツ・ニュルンベルク市スポーツユーゲントと定期的に国際青少年交流事業を実施し、沖縄県糸満市と今帰仁村との青少年派遣交流事業を実施しています。

2 熱中症予防とコロナ対策で講習会実施

昨年6月中旬、コロナ禍によって活動が停止していたスポーツ活動を再開する際に、日本でも有数の暑い地域でもある高崎市新町で最も注意することは、「熱中症とコロナ感染症対策」と考えました。その理由は、熱中症の初期症状とコロナ感染症の症状が酷似しているからです。

講師に大学教授を招へい

そこで、群馬大学医学系研究科応用生理学の鯉淵典之教授を招いて、「熱中症予防とコロナ感染予防について」と題して講習会を開催しました。この講習会参加対象者は、クラブの各教室・団体関係者だけではなく、学校関係者、新町スポーツ振興会関係者と幅広く声を掛けて募りました。

開催にあたり最も気を使ったことは、講習会会場で密にならないことと換気でした。これを解決するために新町中学校に協力していただき、中学校体育館を会場にして40名定員としました。

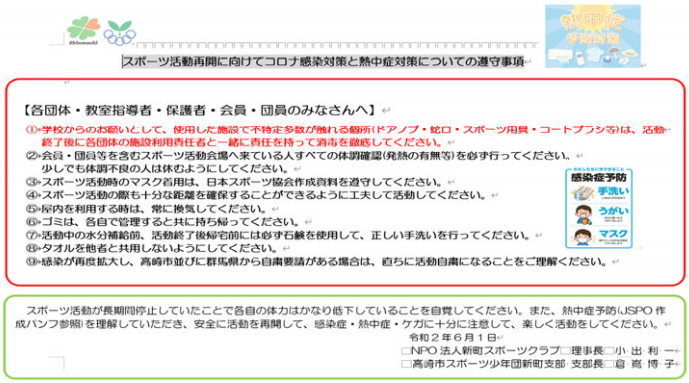
講習会実施後の反響

- 熱中症の初期症状とコロナ感染症の初期症状が酷似していること初めて知りました。
- 体育館内での活動の際、熱中症予防とコロナ感染症予防のために換気が大切なことをよく理解しました。
- 医学の専門的なことを分かりやすく教えていただき、今後、安心してスポーツ活動ができると思います。熱中症もコロナ感染症も正しく知ることが大切だと理解できました。
- 講習会は、参加人数が限られていたことが残念でした。資料だけでも多くの人たちに伝えられるようにしてもらえたら助かります。

講習会実施後の事務局側の声（理事長ならびにマネージメント部門の声）

- スポーツクラブ関係者だけでなく、町内のスポーツ活動している様々な関係者に正しい知識を伝えられたことで、クラブ運営責任者として多少の安心感を得ることができました。
- スポーツ活動前、活動中、活動終了後の帰宅前の正しい手洗い、正しい手指消毒と正しいタイミングを周知できたことと、正しいマスク脱着方法を知ってもらえたことで、マスクによる熱中症を予防できると感じました。
- 講習会参加者からの意見を踏まえ、講習会資料をクラブのホームページから誰でもダウンロードして活用できるようにしました。
  ※この資料は、全国各地の総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団関係者の皆さんがダウンロードしてご活用ください。HPのURLはクラブプロフィールをご参照ください。
  なお、ダウンロードする場合はNPO法人新町スポーツクラブへご連絡ください。

2020年6月14日開催 鯉淵教授の講習会の模様



スポーツ活動再開に向けてコロナ感染対策と熱中症対策についての遵守事項

【各団体・教室指導者・保護者・会員・団員のみなさんへ】

①学校からのお願いとして、使用した施設で不特定多数が触れる箇所(ドアノブ・蛇口・スポーツ用具・コートブラシ等)は、活動終了後に各団体の施設利用責任者と一緒に責任を持って消毒を徹底してください。

②会員・団員等を含むスポーツ活動会場へ来ている人すべての体調確認(発熱の有無等)を必ず行ってください。少しでも体調不良の人は休むようにしてください。

③スポーツ活動時のマスク着用は、日本スポーツ協会作成資料を遵守してください。

④スポーツ活動の際も十分な距離を確保することができるように工夫して活動してください。

⑤屋内を利用する時は、常に換気してください。

⑥ゴミは、各自で管理すると共に持ち帰ってください。

⑦活動中の水分補給前、活動終了後帰宅前には必ず石鹸を使用して、正しい手洗いを行ってください。

⑧タオルを他者と共用しないようにしてください。

⑨感染が再度拡大し、高崎市並びに群馬県から自粛要請がある場合は、直ちに活動自粛になることをご理解ください。

感染症予防 手洗い うがい マスク

スポーツ活動が長期間停止していたことで各自の体力はかなり低下していることを自覚してください。また、熱中症予防(JSPO 作成パンフ参照)を理解していただき、安全に活動を再開して、感染症・熱中症・ケガに十分に注意して、楽しく活動をしてください。

令和２年６月１日

□NPO 法人新町スポーツクラブ□理事長□小 出 利 一

□高崎市スポーツ少年団新町支部 支部長□倉 嶋 博 子

鯉淵教授の講習会会場で配布したパンフレット

3 夏は猛暑地帯の高崎市新町 通常活動でも熱中症予防に配慮

講習会以外の普段の活動では、私たちが主に指導する年齢層が青少年なので、熱中症対策として発汗状態を目視しています。また、暑い盛り（新町周辺は、一昨年も昨年も数日は40度を超える猛暑地帯）なので、体育館での活動は極力避けて、校庭にある大きな欅（けやき）の木の日陰を利用しています。体育館内の種目については、扇風機を回すだけでなく、首の周辺を冷やしながら休憩をとるように指導しています。

3名が熱中症対策アドバイザーの資格を取得

また、熱中症対策アドバイザーの資格を指導者1名と大学生のユースボランティア2名に取得していただきました。この資格は、昨年、大塚製薬協力、環境省後援で組織された「熱中症予防声かけプロジェクト」という団体が付与しています。職場、学校、スポーツ現場等で「熱中症予防」について正しい知識を広めることが同プロジェクトの役割で、有資格者が熱中症について同じ内容を正しく伝達するために共通の資料で説明することになっています。

こうした活動を通して、熱中症とコロナ感染症について、正しい知識を持っていただき、熱中症予防5ヶ条の重要性と感染症予防の心構えについて周知しました。

水分補給する前は、必ず正しい手指消毒

体育館内の活動は、ソーシャルディスタンスを保ち、
蒸し暑い日は4台の扇風機を使用して活動しています

4 今後の課題と目標

熱中症予防とコロナ感染症等の今後の課題

① 熱中症危険地域でスポーツ活動していることをクラブ関係者が忘れないように、継続的に熱中症についての正しい知識を伝え続けることが課題です。

② 熱中症患者を発生させないことが、コロナ感染症で大変な業務となっている医療従事者を支援することにつながることを伝え続けることも課題です。

今後の目標（正しく知って、正しく恐れ、勇気をもって冷静に判断）

① 熱中症も感染症も「正しい知識で正しく恐れる」ことをクラブ関係者すべてに理解してもらい、感染症に対する無知から生じる差別感情が発生しないよう啓蒙（けいもう）活動を継続することです。具体例としては、熱中症も感染症も常に最新のエビデンスがある情報を各教室・団体へ文書を作成して周知しています。また、その文書は、施設を利用させていただいている町内の小学校と中学校にも配布して共通理解しています。

② 河川洪水を中心とした「防災対策と感染症」についても学ぶ機会を設けたいと考えています。
※この企画は、地域の防災士と協働して一昨年の台風19号の際に新町住民が初めて体験した避難生活を踏まえ、素早い避難とその後の密を避けた避難生活について検討する必要があると考えているからです。

③ 地域愛を育むために継続している独自のドイツ・ニュルンベルク市との青少年国際交流事業について、今年度はオンライン交流会として実施しますが、来年度以降は実際の交流が再開できるように準備しています。

（NPO法人新町スポーツクラブ　理事長　小出 利一）

クラブプロフィール

設立年月日　平成12年11月23日（平成22年12月 24日法人登記）

所在地　群馬県高崎市新町2483-2

運　営　会員数320 名（令和3年4月現在）、予算規模440万円（令和3年度）

特　徴
① 青少年の健全育成と子どもの体力向上
② いつまでも元気で活動的な中高齢者育成
③ 国際・国内交流による地域愛の育成
④ 地域で育って地域で役立つ、心がある人の育成

連絡先
〒370-1301　群馬県高崎市新町2483-2
TEL　090-3912-0043
URL　https://shinmachi-sc.org/
E-Mail　shimmachi.sc@gmail.com

特別企画

障がい者スポーツに取り組むクラブ

総合型地域スポーツクラブ F-SPO ＜静岡県富士市＞

総合型クラブは、障がい者スポーツの推進などの様々な地域課題の解決に向け、地域スポーツ団体等と連携を図ることが重要となってきます。また、地域コミュニティの核として期待されている総合型クラブは、地域の障がい者がスポーツに親しむことができる環境を今後さらに提供することも望まれております。

そこで今回は、障がいのある方も活動しているクラブについてご紹介いたします。

1 クラブ概要

ACPや吹矢、高齢者向け脳トレ軽スポーツ教室等を開催

平成27年11月に総合型地域スポーツクラブF-SPOを設立し、平成28年5月に特定非営利活動法人F-SPOになり5年が経過しました。設立時は高齢者向けのスポーツ吹矢（現スポーツウエルネス吹矢）と子どもの遊び教室（ACP専門の教室）を開催しました。代表の杉山（筆者）は「総合型スポーツクラブTAC」で平成17年から活動していましたが、平成30年にF－SPOがTACを吸収合併され、現在に至っています。

現在は「大人健康塾」としてスポーツウエルネス吹矢と高齢者向け脳トレ軽スポーツ教室、「こどもあそび塾」としてACPとドッヂビー教室を開催しています。吹矢はコロナの影響で活動場所が限られ会員が減少しています。

障がい者スポーツ事業を平成29年から実施

富士市との協働事業として障がい者スポーツ事業を平成28年に提案し、29年から始まりました。当初は年に6回程度のスポーツ教室「ふじみなスポ」と障がい者の事業所への「出前講座」、指導者の交流のための「指導者交流会」を実施していました。

今年度より、まちづくりセンターの26講座を委託事業として実施。この講座の中にはアンガーマネージメント、ソーシャルミュージックなど文化的講座も含まれます。また、中高の部活に関わる活動も始めました。

会員数は昨年まで160名でしたが、新型コロナウイルスの影響で退会・休会の方が増え、現在は120名です。

『ドッヂビー教室』の様子

『こどもあそび塾（ACP)』の鬼ごっこ（しっぽ取り）

2 障がい者が安全に楽しめるよう創意工夫

初級障がい者スポーツ指導員の資格を取得

障がいのある方から吹矢の道具が欲しいとの問い合わせがあり、道具を提供するだけでなく、総合型地域スポーツクラブとして障がい者の方々にも参加していただくために、筆者が平成27年に初級障がい者スポーツ指導員の資格を取得しました。同時期に三島市身体障がい者福祉会からスポーツ吹矢を会員に広げたいという依頼があり、道具の提供と併せ月2回指導に行くこととなりました。最初は手や足の障がいの方々が対象でしたが、視覚障がい者が加わり、盲導犬を連れた全盲の方も参加しました。的に向かって吹く矢に対して的が見えない方に、無理なく楽しんでいただくために何をすべきか悩みましたが、できないとあきらめるのではなく、的を移動させるなど工夫して吹矢を楽しんでいただきました。「大人健康塾」の吹矢にも障がいのある方の参加があり、現在は、クラブスタッフ3名も資格を取得し、車いすの会員も一緒に吹矢を楽しんでいます。

★障がい者の方々が吹矢に親しむための工夫・注意事項★

- 道具を手で触れていただき、確認していただきました。
- 的に直接触れたり、吹く位置に実際に立っていただき、鈴やブザーのようなものを鳴らして方向を音で感じていただきました。弱視の方には的に照明を埋める工夫もしました。
- 吹く瞬間の方向は、吹く方のすぐ後ろに立ち、筒を上・下・右・左など細かな方向を言葉で伝えます。吹く瞬間は軽く背をたたき、その合図で吹きます。
- 的に当たるとそれなりの音が聞こえて「当たった」と感じ取れます。当たらなければ遠くの壁に当たる音が聞こえますし、的の外側にあるバックボードに当たると音が大きく聞こえます。的に当たった時は「今のは〇点です」、「中心より〇時の方向に〇センチです」などと正確な位置を伝えます。また、呼吸法が重要ですので、指導員が後ろで「吸う」「ゆっくり吹く」「思いっきり吸って、一気に吹く」などの動作も伝えます。

スポーツ教室「ふじみなスポ」で障がい者が無理なく多種目を体験

静岡県障害者スポーツ協会が障がい者スポーツ教室を県内3会場で開催していましたが、地元の富士市にはありませんでした。できれば富士市内で開催し、公認指導者を市内で集められないか思案していたところ、富士市で障がい者スポーツの事業提案を受け入れていただくことができました。障がい者スポーツ教室「ふじみなスポ」ではフライングディスク、ボッチャ、ミニトランポリン、ランニング（陸上競技）、リズム体操、手のひら健康バレー、卓球などの種目を、事前に指導者の都合等を考慮して年間の実施日程を決めて行っています。8月からはパラチアの指導者も加わります。参加者は市内の小学生から一般の方（50歳代）までいらっしゃいます。今年度の参加登録者は12名です。会場がコロナ対策のため、運動する定員は20名となっていて増やせない状況です。障がい者8～9名、付き添い者5～6名、スタッフ5～6名です。事業にかかる費用は富士市からの委託費で賄っています。今年は5月から月1回「ふじみなスポ」と12回の「出前講座」を実施するようになり、順調に回数を増やしています。障がい者スポーツに取り組み始めた当初から、障がい者のスポーツ実施機会を増やすとともに、公認の障がい者スポーツ指導者の活動場所の確保と経験の場を増やすことを目指してきました。その結果、現在は10名以上の指導者を確保できました。

「できない」ではなく「できる」方法を考えて実施

今年度は、募集から運営までのほとんどをクラブで行っていますが、周知面では広報紙に掲載していただくなど行政にも協力を得ています。「出前講座」ですが、コロナの影響で現在は限られた施設での実施になっています。場所が事業所内でスペースも広くないため、限られた競技しかできませんが、ストレッチや体操を主体に実施し、他にボッチャを加えています。事業所が主な実施対象でしたが、事業所が運営している障がい児の児童クラブでも運動機会をつくってほしいとの要望があり、昨年から障がい児の放課後クラブや特別支援学級の運動教室に出向くようになりました。

障がいの度合いは人それぞれ違いがあり、同じ状況の方はいらっしゃいません。教室を開催するにあたり、その方々に合わせて対応するだけでなく、「できない」ではなく「できる」方法を考えることで安全に楽しんでいただけるよう創意工夫しております。指導者の方々もそれぞれ得意の種目で指導の幅を広げ、楽しんで指導にあたっています。

障がい者スポーツ教室『ふじみなスポ』の
ボッチャの様子

『おとな健康塾』のスポーツウエルネス吹矢の様子

3 家族の参加で障がい者が安心してスポーツを体験

「ふじみなスポ」は障がい者スポーツ教室として開催していますが、付き添いのご家族も一緒に参加していただいています。参加者本人の障がいの特徴やできること・できないことを一番理解されているご家族に参加いただくことで、私ども指導者が障がい者の方それぞれに合った対応ができますので、ご本人も安心してスポーツに親しむことができます。障がい者ならびにご家族との信頼関係が築けていると考えます。

土日開催のため、場所と指導者の確保で苦心

しかし、参加者が固定化して同じ方に偏ってしまう現状があります。また、コロナ禍の影響により、施設の定員が決まっていることもあり、新たな参加者を増やせない状況です。障がい者は平日ですと移動手段がないため、教室開催はどうしても土日になります。大きい体育館の土日は各種競技大会があるため使用機会を増やせない悩みがあります。対策として、今後は複数カ所で実施できるよう計画しております。

指導員も土日に活動できる方が多く、スポーツ教室はどうしても土日になります。「出前講座」は平日の日中に実施しておりますので、指導員は限られてしまいます。これを解消するために、昨年から仕事の第一線から退いた方々に指導員として加わっていただき、少しは活動を増やせることが可能になりました。

障がい者が待ち望む「ふじみなスポ」と「出前講座」 依頼事業所から感謝の声も

「ふじみなスポ」と「出前講座」の活動が、障がい者にとって待ち遠しい存在となっています。障がい者の方々が教室活動を楽しみにしてくれているのは、クラブ側にとって大変うれしいことです。「出前講座」の依頼先の事業所の方からは、「参加者が生き生きとした表情で運動しており、（来て指導してもらい）良かったです」との声もいただいています。また、「出前講座」は年間の回数が限られていますが、「経費が事業所負担となってもいいので毎月開催してほしい」という事業所もあり、定期的に運動する機会を提供することの重要性が評価されていると感じます。

障がいが有っても無くてもスポーツを楽しむことができる環境を提供することが重要と考えるようになり、障がい者と健常者が一緒にできるスポーツを今後も企画していきます。また、障がい者スポーツの指導を経験したことで、高齢者の方々への指導にも共通する要素があることが分かり、それを高齢者への指導に反映できるようになりました。

4 障がい者と健常者が一緒のコミュニティづくりを

障がいの有無や性別関係なくすべての人々が一緒のコミュニティづくりを進めていきたいと考えます。

障がい者だけのスポーツの取り組みではなく、障がい者と健常者が一緒にスポーツをするコミュニティづくりの場として、今年度は市内の2カ所のまちづくりセンターでボッチャの活動を毎月複数回開催しています。現在、障がい者と健常者が日曜日に一緒に競技し、木曜日は健常者だけで実施しています。来年3月にはボッチャ交流イベントを開催する計画です。

文化活動と学校部活動支援も視野に

今後はスポーツクラブとしてできることを率先して進めていくとともに、文化的な活動も増やしていきたいと思います。また、今年度は中学校の外部部活動として、クラブが得意とするフライングディスク（アルティメット）を学校の運動場を利用して指導する活動を開始しました。ちなみにアルティメットは男女一緒にプレーできる競技です。この試みを踏み台に、総合型クラブが学校部活動を支援する新たな展開を模索していきたいと考えます。

（総合型地域スポーツクラブF-SPO　代表・理事長　杉山 克秀）

クラブプロフィール

設立年月日　平成27年11月19日（平成28年5月2日法人登記）

所在地　静岡県富士市

運　営　会員数120名（令和3年3月現在）、予算規模400万円（令和2年度）

特　徴
- 利用できる施設（10カ所の公共施設）で、その地域の方を集めて活動しています。
- マイナーなスポーツを中心に楽しんで体を動かしています。
- 文武両道を基本に活動中です。

連絡先　〒417-0055　静岡県富士市永田町1丁目11番地
TEL　0545-52-6088　FAX　0545-52-6338
URL　http://f-spo.la.coocan.jp/
E-Mail　sugi_yama@nifty.com

特別企画

障がい者スポーツに取り組むクラブ

NARUTO総合型スポーツクラブ ＜徳島県鳴門市＞

総合型クラブは、障がい者スポーツの推進などの様々な地域課題の解決に向け、地域スポーツ団体等と連携を図ることが重要となってきます。また、地域コミュニティの核として期待されている総合型クラブは、地域の障がい者がスポーツに親しむことができる環境を今後さらに提供することも望まれております。

そこで今回は、障がいのある方も活動しているクラブについてご紹介いたします。

1 クラブ概要

スポーツ推進委員を中心に平成27年に設立　4つの分野で教室を始動

NARUTO総合型スポーツクラブは、鳴門市スポーツ推進委員が中心となって設立したクラブです。スポーツ推進委員として地域住民のスポーツ推進に取り組む中、もっと多くの住民がスポーツに親しむことのできる場所を提供したいとの思いから、「いつでも・だれでも・どこでも」参加できる地域コミュニティの場をつくり、みんなの力で、支え合い・助け合い・協力し合い・分かち合い・教え合う、活力ある街づくりを目指すことを目的に平成27年に設立しました。

クラブの目的を達成するための事業として、①こどもの健全育成　②競技スポーツの推進　③健康づくり、体力向上　④地域のコミュニケーションの4つの分野を設定し、様々な教室が始まりました。参加者同士のつながりや口コミで会員数も増え、現在（令和2年度）653人です。

2 障がい者の希望で野球チームを結成

下肢障がい者との出会いが契機に

クラブを設立した平成27年に、クラブ事務局員と下肢障がいのある方との出会いが障がい者スポーツに関わるきっかけとなりました。その方が、仲間を集めて自分たちも野球がしたいとの思いから、障がい者野球チーム「徳島ウイングス」を結成するとともに、徳島ウイングスはNARUTO総合型スポーツクラブの団体会員となりました。

メンバーが自主運営　クラブは側面からサポート

日頃の定期的な練習などは徳島ウイングスのメンバー自らが参画して運営し、クラブとしては、他団体との連携活動やチームの強化練習プログラムの提案、健常者チームとの練習試合や大会支援などを行っています。また、広報活動にも積極的に取り組み、地元新聞へ活動紹介等の記事を掲載していただいたことで、多くの方に障がい者野球チームが定期的に活動していることを知ってもらい、少しずつ新たなメンバーやボランティアが集まりました。

初めて開催した野球大会に県外チームも参加

クラブとして、初めての大会運営となった「第1回障がい者軟式野球大会」では、徳島ウイングと県外から障がい者野球2チーム（神戸コスモスと愛媛ブレイド）の計3チームが参加するとともに、運営スタッフとして地元の県立高校野球部や各種団体から協力をいただき、どうにか無事開催することができました。

球場外の病院や商店のトイレも確保

この大会を開催した球場には、簡易な仮設トイレのみ設置されていて、下肢に障がいのある方が利用する場合、近くの病院や商店に予めトイレを使用させてもらえるように依頼するなど運営側としてできる準備はしましたが、内心「本当にこんな対応で良いか」と大変悩みました。そんな時、チームの方たちから「僕たちは元々、何も無いところを工夫してきました。今回も野球ができることがうれしくて、トイレ対応のことは何も心配しなくていいですよ」と言っていただきました。さらに、そのことを知った他県チームの方たちからも同じような言葉をかけていただき、その言葉に胸が熱くなったことは今も忘れられません。

第1回障がい者軟式野球大会　　鳴門市営球場

3 障がい者との出会いで得られた勇気と元気

車いすバスケのメンバーもクラブ会員として活動

障がい者スポーツに関わり6年が経過し、今では「第1回障がい者軟式野球大会」を開催した鳴門市営球場にも多目的トイレが設置され、誰もが安心して利用することができるようになりました。設置された経緯ですが、第1回障がい者軟式野球大会を開催した際、鳴門市の行政担当者の方が誰もが利用可能な仮設トイレの設置を検討していただいたこともあり、鳴門市スポーツ施設の改善を図る際に多目的トイレの設置に向けて検討していただけることとなりました。クラブ事業でも障がい者の定期的な活動場所として市営球場を使用していたことで、2019年に多目的トイレが設置されました。

また、徳島ウイングスも設立当初7人だったチームメンバーも、現在22人となり、全国大会にも出場することができました。

その後、車いすバスケットボールチームのメンバーとの出会いがあり、障がい者野球チームのメンバーと同じようにクラブの会員となり、クラブが練習場所の確保などの課題を解決するとともに、他県の車いすバスケットボールチーム等との合同練習会や体験会を開催し、障がいの有無に関わらず誰もが親しめるスポーツ機会として定着しています。

障がいの有無に関係なく会員自ら運営に参画

クラブでは、会員自らが教室などの運営に参画しています。障がい者スポーツの取り組みも同様に「みんなの力で楽しくスポーツを盛り上げる」。これは障がいがある人もない人も何も変わりありません。

クラブの事業は幼児から高齢者まで様々な教室があり、そこに障がい者スポーツがあります。様々な教室に参加している子どもたちが保護者と共に、障がい者スポーツの競技種目を体験する機会を創出したり、クラブハウスに車いすを使用される方が来て雑談するなど、障がいの有無に関わらず自然とスポーツを通じた地域コミュニティの醸成ができています。

地元のプロ野球独立リーグチームと事業提携や市町村行政との連携

障がい者野球チームの活動においても、プロ野球独立リーグ・四国アイランドリーグplus所属の「徳島インディゴソックス」と障がい者野球を広めるための事業提携を行い、徳島インディゴソックス選手と同じユニホームを着用して試合に出るようになりました。また、徳島インディゴソックスのスポンサーからも競技用車いす3台を寄付していただくなど、活動に必要な用具等も充実しました。

また、鳴門市行政の協力を得て、市内の小学校の児童を対象に「障がい者交流授業」を開催することで、障がいへの理解を深めてもらうなど、障がい者スポーツの普及・啓発にも貢献しています。

新たに車いすソフトボールチーム結成へ

さらに、障がい者スポーツを推進する総合型クラブの新たな挑戦として、四国初の「車いすソフトボールチーム」の結成に向け、県外チームを招へいして体験会を開催するなど、車いすソフトボールのチーム結成に向けて動き出しています。

四国初の「車いすソフトボールチーム」結成は、障がい者スポーツに関わったときから考えていましたが、10人制の競技に1台25万円以上もする車いすをそろえることはクラブにとって大きな課題でした。昨年、障がい者スポーツを応援したいと、子どもの教室に来ている保護者でもある地域の会社社長から申し出があり、4台の競技用車いすを寄付していただきました。これで健常者を交えて同じフィールドでプレーできる車いすソフトボールチーム結成に取り組む準備も整いました。

障がい者スポーツ事業に取り組み、たくさんの方々の支援をいただき、自分たちが暮らす身近な場所で、スポーツを行いたい障がい者の方の笑顔が見られることは、クラブにとってもうれしいことです。

インディゴソックストレーナーの野球指導

小学校での障がい者交流授業
障がい者競技スポーツ体験

車いすソフトボール体験会

4 東京パラ開催契機に障がい者スポーツの認知度向上を

障がい者スポーツはまだまだ認知度が低く、身近なところでスポーツができることを知らない障がい者の方もたくさんいらっしゃると思います。

今年はパラリンピックが開催され、障がい者スポーツ・パラスポーツへの興味・関心が高まると思います。私たちも、障がいの有無に関わらず、誰もが共に身近な場所でプレーできるスポーツの体験会や大会開催等を通じて認知度を上げるチャンスと考えています。

地域共生社会の実現に向け財源確保が課題

クラブでは障がい者スポーツを推進していくための予算が無いことから、今後、各種大会運営等の財源確保が課題となりますが、地域共生社会の実現を目指して頑張っていきます。

（NARUTO総合型スポーツクラブ　クラブマネジャー　山本 恵美）

クラブプロフィール

設立年月日　平成27年4月1日

所在地　徳島県鳴門市鳴門町高島字北577

運　営　会員数653名（令和3年3月現在）、予算規模15,756,501円（令和2年度）

特　徴
- 幼児から高齢者（障がい者を含め）まで、誰でも参加できる教室を開催しています。
- クラブ会員に登録すると何種目でもスポーツを楽しむことができます。
- 複数の教室に参加する会員が多くいます。
- 会員から教室やイベント開催の要望があり、それをクラブ事業に取り入れ、会員と一緒にクラブを盛り上げています。

連絡先　〒772－0051　徳島県鳴門市鳴門町高島字北577
TEL　088－683－6878
URL　https://sc-narutoclub.jimdofree.com/
E-Mail　cs-naruto@md.pikara.ne.jp

連　載

Withコロナの中で新たな取り組みを行うクラブ

NPO法人SFF若松サンシャインスポーツクラブ ＜福岡県北九州市＞

世界中で甚大な被害をもたらしている新型コロナウイルス感染症による影響は計り知れません。クラブが受ける影響も大きく、各クラブで試行錯誤している状況にあります。少しでも全国のクラブの力となるよう、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら、新たな取り組みを行うクラブについてご紹介いたします。

1 クラブ概要

勉強に苦しむ子どもを救うために、運動による学習への効果に着目

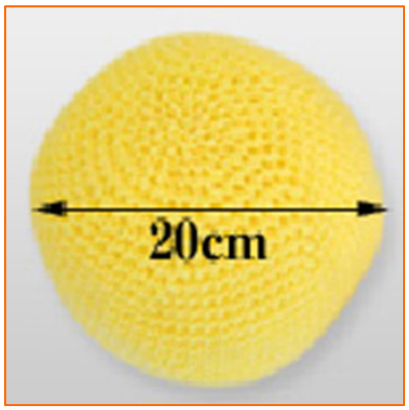
今から19年前の平成14年に勉強に苦しむ子どもたちを救うべくNPO法人を設立し、お母さんのための勉強会を開催していました。その時スポーツ・運動の効果に着目し、参加者10名のスポーツ少年団サンシャインスポーツクラブを創設。平成18年に若松区で初めての総合型地域スポーツクラブとなる、若松サンシャインスポーツクラブを設立しました。その後、運動と学習の関係に関する調査観察により、運動を実施することによって、学習への効果も高まるとの確証を得ました。平成22年にアメリカ最新脳科学研究にも合致した運動＋学習の「S.パワーキッズプログラム」（特許庁登録5726307）を考案、同時期に運動の苦手な子どもたちのために顔に当たっても痛くない運動能力開発ボール「ママの玉子」（特許庁登録5734096）や同ボールを公認球とした1人対１人対戦型の「スーパーハードドッジ」（特許庁登録5732778）等も考案するに至りました。「スーパーハードドッジ」は子どもたちに人気で北九州市スポーツ少年団の公式大会として行われるようになりました。

子育ての悩み（発達障害・学力不振）解決に効果的なS.パワーキッズプログラム

子育ての中で発達障害や学力不振など様々な悩み・問題の改善にはスーパーハードドッジをメインプログラムとしたS.パワーキッズプログラムの超高強度運動が効果的でした。そのカギは「早期・長期・継続」。

同プログラムにより悩み・問題が改善されたこともあり、校区・区域外から参加者が徐々に集まり、コロナ以前には野球・テニス・バドミントン・S.パワーキッズプログラムの4つのクラブの参加者は100名程になっていました。それに加え北九州市からの委託で一般参加のジュニアスポーツ教室や親子運動教室等を開催していました。

参考図書
『S.パワーキッズプログラム』の
医科学的根拠となる書籍
「脳を鍛えるには運動しかない」



顔にあたっても痛くない運動能力
開発ボールママの玉子（大）

2 コロナ禍の逆境を打開した「まほうの○」を考案

コロナ禍で再開困難な状況でも子どもたちの運動環境を確保

運動は発育発達期の子どもたちにとって骨や筋肉、運動神経や脳の健やかな成長を育むために欠かすことのできない生命活動です。ただ、コロナ禍との戦いは昨年の4月～6月の緊急事態宣言発令による休業中にも長期戦になることは予想していました。子どもの運動スポーツ活動の性質上、密着・密集は避けられず、このままではクラブの再開は難しいのではないのかとも思っていました。そして3か月の長期にわたる緊急事態宣言発令と休業要請期間中に子どもたちの運動環境をいかに確保するかを考えました。

コロナ禍の子どもの体力低下問題が全国的に顕在化

長期休校や外出規制の影響で、子どもの体力低下や運動不足・イライラ・ストレス等、心身の健康が問題視され、運動活動の社会的需要増大は見込まれていました。しかしながら「3密」・「新しい生活様式」が足かせとなり、全国的に見ても学校部活等スポーツ運動活動がままならないという現状でした。

逆転の発想で生まれた「まほうの〇」は完全非接触型運動プログラム

そこで「子どもの運動と学習の関係」に関する専門家でもある理事長の山崎（筆者）が考案したS.パワーキッズプログラムを基に、従来のクラブの活動では密着や密集・接触は当たり前だったものを、「3密」・「新しい生活様式」等のキーワードを逆手に、動く範囲を輪の中、周囲だけと制限をかけることで、密集や密着、接触を防ぎ、これにより、人との距離を取ることにつながり、なおかつ強度の高い運動で運動量を確保すべく、完全非接触型運動プログラム「まほうの〇」を考案できたのです。

★「まほうの〇」の概要★

直径30cm周囲１mの輪の中や輪の周囲を使って行う小スペースでの運動プログラムです。バランス系・スピード系・ジャンプ系・筋力系・ボール系・ゲーム系のほか、かけっこが速くなる運動や相撲遊び等現在60種類超あります。その上　楽しい・楽笑・楽々（3楽）でとにかく笑えます。

例えば〇抜け（輪ぬけ）

① 輪の中に直立
② スタートの合図で　足元から頭まで輪を抜き、また足から輪に入れます
③ 同動作で連続10回抜けた後、元の体勢で輪の中に直立して入り、タイムを競います。

この〇抜けは、素早い動作で10回抜けるのがスムーズにいかないため、必死の動作となり、それが笑いを誘います。体の小さな子どもが大きな子どもにも勝てるところも面白いです。

制作材料費150円　工作時間は10分程度の輪っか

- ホームセンター等の工具器具備品材料コーナーで販売しているPUチューブ（10cm/12円）を子ども用は1m、大人用なら1m40cm程度とカラー布テープを購入
- PUチューブで子ども用は直径30cm、大人用は直径40cmの輪を作り、布テープでぐるぐるに止めるだけで完成

「まほうの〇」の名称由来は？

テレビ・新聞・ラジオ等に取材いただいた時、必ず質問されたのが「まほうの〇」の名称理由です。「輪を使った運動後、魔法のように子どもたちの運動能力や学習能力がアップして変わる」ということから名付けました。

小さいスペースでの運動で「やる気」が出る効果も

「まほうの〇」の土台となった運動（S.パワーキッズプログラム）の効果は、既に平成30年の地元テレビ局の「シリタカ！」番組放送内で立証済みでした。その内容は、全くやる気のない小学5

年生の、進まない夏休みの宿題を、わすかな時間の運動でやる気を引き出し、行わせるといった企画でしたが、その後2日間で見事宿題が完成したというものでした。

やる気のない子どもがやる気になったのは、やる気を引き出す脳内物質のドーパミンの分泌を促す運動と言葉かけ等の効果により成果を得られるという科学的根拠によるものです（参考図書　脳を鍛えるには運動しかない）。効果だけでなく活動スペース的にみても、その小学5年生が実際に使用した運動スペースは家の中でのわずか直径30cm程度のものでした。

まほうの〇　（まほうのわ）
直径30cm、周囲約1m、
材料費150円程度

運動不足解消へ「魔法の〇」

輪の中で飛び 周囲回り

3密回避 若松の山崎さん考案

テレビ・ラジオ等メディア取材のきっかけとなった
西日本新聞紙地方版掲載記事

3 コロナ禍の子どもの運動不足解消に「まほうの〇」取り組みの効果・反響・課題

「まほうの〇」の効果とその反響

休業要請明けの昨年7月末にクラブ主催の親子セミナーで「まほうの〇」を体験していただきました。 参加者49組、参加人数100名超で、「とても楽しかった」との声が　91%にのぼりました。

※感想　「運動することの大切さを改めて実感しました」
「運動が脳に良い影響を与えることが分かりました」など多数

この時に参加されていた医療機関関係者の保護者様からのご紹介で、長年にわたり地域医療に貢献されている病院長様（福岡県遠賀郡水巻町の楠本内科医院様 https://kusumotonaika.net ）からお声をかけていただき、医療施設内での「まほうの〇」セミナーを開催できる運びとなりました。
同医院は育児の悩みや発達障害などの悩みに「子どもの発達デザイン研究所」（https://kodomodesign.or.jp/ ）メンバーを配置し、「お母さんのための相談室」等を設け熱心に取り組んでおられます。

これまでの実績

「まほうの〇」の効果が認められ病院や幼稚園等の医療機関や教育施設等でも教室を開催いたしました。
～たった3分でやる気アップ！！～「親子楽ラク運動教室」と題し教室（90分）を開催。

- S.パワーキッズプログラムHP：https://s-powerkids.jp/kids2/20201029101811/
- 『まほうの〇』入門編　紹介動画：https://youtu.be/zj0g24ISWUE

【参加者からのアンケート回答】

幼児～大人まで　98組　178人参加　→　92組　「楽しかった」との回答が94%

- 「計算スピードが速くなった」 4人中→3人　75%　（小学1年生～50代）
- 「体力・運動不足が分かった」 5人に1人　20%　（20代～50代）

※なお、運動不足・体力不足が判明した人に「まほうの〇」3分プログラムを続けてもらうと、体力・計算力で向上効果が見られました。その効果はコロナ禍の子どもから大人までの運動不足解消・体力アップだけにとどまらず、計算スピードや記憶力等の認知能力の向上も認められました。

【コロナ感染対策面での効果】

従来のクラブの活動では密集・密接・密閉の3密とソーシャルディスタンスを果たすことができませんでしたが、「まほうの〇」のプログラムなら3密もソーシャルディスタンスもクリアできたことです。

【今後の課題】

「まほうの〇」は3種類の運動を各1分ずつ行うことで、運動能力や体力向上にとどまらず、計算スピードや記憶力等認知能力の向上等で想定通り（医科学的根拠）の効果が見られました。コロナ禍で運動活動が制限される等の悩みを抱える人たちの一助になるためにも、このことを世の中に広く知ってもらいたいと考えております。

4 「まほうの〇」で全国の子どもたちを元気に

SNS活用し認知を促進　将来的には各県単位の支部作りも視野

「まほうの〇」の動画を分かりやすく、ネットを通じ人との接触を回避しながら、オンラインセミナーの開催やYoutubeにも公開し、広域での認知を促進すると同時に、さらに興味を持ってもらえた人を対象に指導者養成（ライセンス受講セミナー）コース等を設けます。将来的には各県単位の支部作りも視野に入れ、この事業を行います。

「おもしろスポーツ大会』の公認記録のサイトを公開へ

ライセンスセミナー受講者や導入いただいた関係機関の後方支援として「おもしろスポーツ大会』の公認記録のサイトを公開し、「まほうの〇」の公式記録やスーパーハードドッジ大会の記録を掲載して広報支援活動を実施します。「おもしろスポーツ大会」は「まほうの〇」を使った10種類の競技です。使うのは「まほうの〇」だけなので用具等準備が要らず老若男女問わず参加して楽しめます。

おもしろスポーツ大会（若松区体育館） 2020年9月19日（土）参加者100名

公式　実施競技名/優勝記録/優勝者の学年

① グッパーステップ	98回／分	小学5年
② ナカソトステップ	77回／分	小学4年
③ ハイパーステップ	55歩／10秒	小学3年
④ けんけんステップ10m	19.7秒	小学2年
⑤ 10m走	16.4秒	小学5年
⑥ 〇ぬけ（わぬけ）10回	18.18秒	小学1年
⑦ ライオン5m走	11.04秒	小学3年
⑧ アシカ5m走	20.79秒	小学3年
⑨ クモ5m走	28.78秒	小学3年
⑩ バランス相撲		小学3年

※参考URL　https://mbp-japan.com/fukuoka/s-powerkids/column/5075632/

ユニセフ支援活動を次世代につなげ、世界の子どもたちを元気に

クラブ設立の原点である「子育ての悩み」を抱える全国の家族を一人でも多く元気な笑顔にするために、平成17年から続けているユニセフ支援活動のさらなる継続を進めます。

また、クラブ参加費の一部をユニセフ支援に充て、これまで37万3711人（ビタミンA補給剤1年分146万4477円相当）を支援しました。ユニセフによると、ビタミンAが不足すると失明したり、免疫力が低下するために、下痢やはしかなどのごく普通の病気から死にいたる危険が高くなります。ユニセフの支援活動を次世代につなげていくことが目標です。

（NPO法人SFF若松サンシャインスポーツクラブ　理事長　山崎 憲治）

おもしろスポーツ大会
『完全非接触の10種目』　直径30cm、周囲約1mのまほうの〇を使ったバランス相撲、飛行機バランスの部

クラブプロフィール

設立年月日　平成15年4月1日（平成14年4月2日法人登記）

所在地　福岡県北九州市

運　営　会員数101名（平成31年3月現在）、決算1208万円（令和元年度）

特　徴　【課題解決型クラブ】
①発達障害ADHD学習障害・学力不振・問題行動等の悩みを抱える子どもたちの改　善・支援
②　運動嫌いや運動の苦手な子どもたちのためのプログラム開発
③　運動＋学習の『S.パワーキッズプログラム』の普及（ https://s-powerkids.jp/ ）
④　指導者養成講習会・研修会開催　動画オンライン配信
⑤　おもしろスポーツ大会・スーパーハードドッジ大会開催・普及活動
⑥　運動能力開発ボール（ママの玉子）販売
⑦　ユニセフ支援活動

連絡先　〒808-0014　福岡県北九州市若松区栄盛川町3－26
TEL　093-761-0868　　FAX　093－981-8381
E-Mail　info@npo-sf.com

助成金情報

一般公募助成事業

［実施団体］（公財）ライフスポーツ財団

総合型地域スポーツクラブや地域で活動する団体で実施されている親子や幼少児を対象としたスポーツ事業（大会・教室等）に助成金を交付しています。

地域に根ざす活動として取り組まれており、誰でも参加できる事業が対象となります。

実施回数や参加人数によって金額が定められます。

詳細は以下のホームページをご参照ください。

https://www.lsf.or.jp/josei

高齢者福祉助成（近畿 2府 4県限定）

［実施団体］（公財）大阪ガスグループ福祉財団

活力あふれる長寿社会を実現するため、高齢者を対象にした福祉活動や高齢者の社会参加を支援する活動など、「高齢社会における地域福祉づくり活動」に対して助成します。

※滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市の社会福祉協議会の推薦が必要

［申込期間］ 令和3年7月1日（木）～令和3年8月31日（火）

申込書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、社会福祉協議会へ提出します。

http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/fukushi/jyosei/fukushi_detail.html

お知らせ

日本スポーツ協会情報

熱中症対策について

これからの季節、屋内外の運動で特に気をつけたいのが熱中症です。
スポーツによる熱中症は適切な予防をすれば防ぐことができます。
熱中症事故をなくすために、しっかりと対策に取り組みましょう。

熱中症予防運動指針やスポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック、啓発動画等についてはこちら
https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html

ワールドマスターズゲームズ情報

「ワールドマスターズゲームズ2021関西」大会参加者募集！

概ね30歳以上なら誰でも参加できる世界最大級のスポーツ祭「ワールドマスターズゲームズ2021関西」が、2022年5月に日本初開催となります。
競技参加はもちろん、参加者同士の交流や地域の観光も楽しめます。
また、大会ボランティアも募集しています。
関西でスポーツを一緒に楽しみませんか?

●開催期間
2022年5月13日（金）～5月29日（日）

●競技種目
公式競技　35競技59種目

●開催場所
関西各地域

●大会公式ホームページ
https://wmg2021.jp/

●エントリー方法
大会エントリーはこちら
https://wmg2021.jp/games/entry.html

ボランティア申込はこちら
https://wmg2021.jp/games/volunteer.html

●エントリー締切
2022年2月28日（月）
（大会ボランティアは2021年12月31日（金））

「事業場における労働者の健康保持増進計画助成金」（厚生労働省関係）についてのお知らせ

助成対象となる取組に総合型クラブが行う「健康指導」「研修等」が対象となりました！

独立行政法人労働者健康安全機構（JOHAS）は、事業場が行う労働者の健康管理や健康教育に対する助成事業を実施しています。
令和3年度から新たに「事業場における労働者の健康保持増進計画助成金」が創設されました。

同助成金は、事業場が行う労働者の健康保持増進のための活動に対して助成金（上限10万円）が支給されます。
この健康保持増進のための活動のうち、事業場外資源としてスポーツクラブ等（総合型クラブを含む）で実施する「労働者に対する健康づくりのための健康指導」「事業場内の推進スタッフに対する健康づくりのための研修」が助成対象となっております。
総合型クラブの健康増進に向けた取組が評価された形となりました。
健康増進に向けた取組を実施している総合型クラブにおいては、企業等との連携にご活用ください。

事業概要については、以下をご覧ください。
【事業場における労働者の健康保持増進計画助成金】（労働者健康安全機構HP）
https://www.johas.go.jp/sangyouhoken/tabid/1945/Default.aspx